

## セーフコミュニティ対策委員会会議録

会議体の名称	第1回外傷サーベイランス委員会
事務局（担当課）	セーフコミュニティ担当課
開催日時	平成23年1月25日（火） 13時30分～15時00分
開催場所	池袋保健所講堂
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. セーフコミュニティについて</li> <li>2. 外傷サーベイランス委員会について</li> <li>3. 既存データの分析について</li> <li>4. アンケート調査について</li> <li>5. 豊島区における外傷サーベイランスシステムの構築について</li> <li>6. その他</li> </ol>
出席者 ※所属・氏名を記入	<p>委員長 池袋保健所所長 村主千明</p> <p>委員 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 衛藤 隆  豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 石附 弘  豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 市川 正雄  豊島区医師会理事 高橋 清輝  東京消防庁豊島消防署救急技術担当係長 古木 康友  東京消防庁池袋消防署救急技術担当係長 來次 良弘  政策経営部長 吉川 彰宏</p> <p>事務局 セーフコミュニティ担当課長、防災課、健康推進課、長崎健康相談所</p>
提出資料 ※件名のみ記入	<p>資料1 外傷サーベイランス委員会名簿</p> <p>資料2 セーフコミュニティ認証に向けた基本方針</p> <p>資料3 外傷サーベイランス委員会について</p> <p>資料4 救急搬送データから得られる情報と活用について</p> <p>資料5 子どものけが・事故に関するアンケート調査の概要（速報）</p> <p>資料6 外傷サーベイランスシステムについて</p> <p>資料7 厚木市外傷サーベイランスシステム（現地審査資料）</p>
議事要旨 ※発言の要旨を箇条書きで記入	<p>■データの活用した仕組みの構築について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートから、居住形態の分析が重要。マンションや戸建等と分けて検討するべき。</li> <li>・これまでは、どこでどういう受傷があるのかデータがないため知られていなかった。まずは知ることからはじめなければならない。どのような受傷に注意すべきか知識を共有財産とし、その中で特に緊急性のあるものは原因者に対策を申し入れるという仕組みの構築が必要。</li> </ul>

### ■医療データについて

- ・豊島区では他区の医療施設に依存している割合が高い。そのフォローアップを他区に求めるのはかなり難しい。
- ・アンケートでフォローするしかないのではないかと。豊島区が、緊急搬送データを、重症例のカバーに利用するならば、有効データとして活用できるのではないかと。軽症例に関しては、2年に1度くらいの調査程度で十分ではないかと。認証基準にあるハイリスク集団のカバーは、こども、高齢者がターゲットとなる。その実態把握に対し、2段階であればかなり有効なサーベイランスだと思う。

### ■子ども、高校生の年代を対象とした調査について

- ・あらゆる年代のカバー、豊島区民以外への対応について、救急搬送データでカバーされている。ただし、学校内の受傷の状況把握には課題がある。
- ・区立学校でのけがや事故については、学校保健集計の結果がでている。ただし、私立高校等は対象外のため、全部を把握することは難しい。
- ・15-17歳世代について、住民限定ではなく、豊島区にある高等学校をサーベイランスするというお考えはないのか。豊島区民でなければならないということはない。
- ・学校内の問題をどれだけ把握できるかわからないが、それが可能かどうか、努力はしてみる。
- ・まず1校でもモデルケースとして可能な学校でデータ収集を実施し、それを段階的に普及させていく考え方もある。

### ■高齢者へのカバーについて

- ・居住環境の把握方法として、独居老人に対する区の見回りを活用する方法がある。段差の有無、照度、洗濯物の散乱など、3つ程度の簡単な指標で足りるのではないかと。

### ■救急搬送データについて

- ・救急搬送データについて、現住所が区内かどうか、外国人か、障害者かどうかを把握することは可能なのか。
- ・障害者の把握は難しいかもしれないが、居住地、国籍等は把握している可能性がある。
- ・救急搬送データの22年分はいつ頃頂けるのか。
- ・現在、エラー修正中。3月20日を目途に整理したい。
- ・救急搬送データの抽出について、必要な項目を明確に決めてほしい。それに合わせて用意する。ただし、データの取り扱いには十分注意してほしい。万が一、漏れると次から出せなくなる。

**■その他**

- ・ 認証取得に向けて、研究発表の仕方に慣れていく必要がある。他の自治体と比べて豊島区の状況を如何にプレゼンすることが出来るかが重要となる。
- ・ 次回の委員会は3月に開催。対策委員会とサーベイランス委員会の関係を整理した模式図、区内の高校との協議結果、緊急搬送データで必要な情報の整理を用意。